

## Ⅲ－1 森林づくりボランティア活動促進事業

事業費 36,475千円

【森との共生推進室】

### 1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体

### 2 事業の目的



県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するとともに、森林ボランティア活動の活性化を図る。

### 3 実施事業の概要

#### (1) 森林づくりボランティア支援センター事業

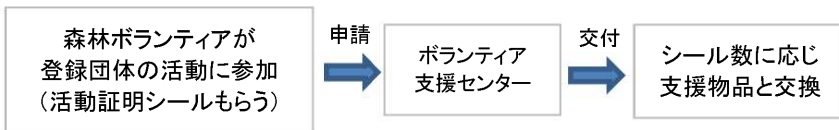
「大分県森林づくりボランティア支援センター」を通し、森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

委託先	特定非営利活動法人 グリーンインストラクターおおいた
事業内容	①ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる情報発信 ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行） ②森林ボランティア団体、個人の登録 ③ボランティア通い帳の発行（116冊） ④安全講習会の開催（16名参加） ⑤森林づくりフィールドの募集、情報提供 ⑥森林ボランティア団体協議会の活動支援（情報交換会、学習会開催）

「大分県森林づくりボランティア支援センター」施設整備事業	
事業期間	平成25年度（単年度）
事業目的	森林ボランティア、森林環境教育の活動拠点を整備する
事業内容	旧大分県緑化センター（大分市高尾山自然公園内）建物を改修し、森林づくりボランティア支援センター事務所を設置 耐震診断及び、老朽化した建物の改修工事を実施
事業費	12,196千円
利用計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林づくりボランティア支援センター事務所を設置</li> <li>・森林ボランティアを対象とした各種研修会の開催</li> <li>・森林ボランティア参加のきっかけを作る自然体験の場として活用</li> <li>・森林環境教育を実施する様々な団体の活動拠点として活用</li> </ul>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-left: 20px;">                     H26.4月から利用を開始、今後様々な団体の活動の拠点として利用が見込まれる                 </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div> <p style="text-align: center;">高尾山自然公園内に移転した 森林づくりボランティア支援センター</p>

(2) 森林づくりボランティア活動支援事業

森林ボランティア活動を支援するため、森林ボランティア登録者に対し、森林づくり活動実績に応じてタオル・鎌・鋸などの支援物品26件を交付した。



(3) 森林づくりボランティア技術向上事業

森林ボランティアのための各種研修会を開催し、森林ボランティアの養成、知識や技術の向上を支援した。平成25年度は新規に「中級講座」「チェーンソー研修」を開催した。

	開催回数	参加者数	内容
初級講座	2日×2回	23人	森林・林業の基礎知識 危険な野生生物 応急手当、自然観察 植樹実習 など
中級講座	2日×2回	17人	森林づくりの方法 多様な森の観察 森林の手入れ 道具の使い方 など
上級講座	刈払機 1日×1回	29人	刈払機の基礎知識 実習
	チェーンソー 2日×1回	29人	チェーンソーの基礎知識 実習

<初級講座>



<中級講座>



<上級講座>



刈払機研修



チェーンソー研修

(4) 企業参画の森づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。25年度は新たに1社が加わり、協定締結企業は28社となった。また、2社が再協定を行った。

(株)小松製作所 協定締結式



<平成25年度 新規協定>

新規協定：1社、(株)小松製作所

協定面積：11.5ha

内容：臼杵市有林に植栽

NTT西日本大分支店

広葉樹を植栽

<平成25年度 再協定>

再協定：2社 ・NTT西日本大分支店

・(株)オーシー



(5) 森林づくり提案事業

県民からの提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

実施団体：56団体

※詳細は次頁「事業一覧表」を参照

参加者：11,386人

ボランティア団体による森林整備



「日本文理大学」竹炭づくり教室



4 成果

- ・森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12,832人が森林づくりに参加した。平成25年度の目標参加者数達成率は111%であった。
- ・県下各地のNPO、ボランティア団体等と協働し、県民参加の森林づくりを推進できた。

<森林ボランティア団体数、参加者数の推移>

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率(%)
H18	31	583	9,361	8,500	110%
H19	34	1,000	9,511	8,700	109%
H20	41	1,233	9,734	8,900	109%
H21	46	1,318	12,567	9,200	137%
H22	51	1,912	12,608	9,500	133%
H23	53	2,056	12,497	10,200	123%
H24	60	2,213	12,612	10,900	116%
<b>H25</b>	<b>62</b>	<b>2,329</b>	<b>12,832</b>	<b>11,600</b>	<b>111%</b>
H27	—	—	—	13,000	—

5 課題及び今後の取組

森林ボランティア参加者数については、目標は達成しているものの、近年高止まり傾向にあるため、引き続き森林ボランティアの育成、森林ボランティア団体への支援を行う。

平成25年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	事業の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
1	大分北部	自然林再生活動	両子の森プロジェクト	国東市	ボランティアを募り、2年前の植樹地(常緑樹、落葉広葉樹)で下刈やシカネット調整、自然学習会等を実施し、森について学びながら、地域活性を図る	175	159
2		山で遊ぼう 横岳フェスタ	横岳フェスタ実行委員会	杵築市	山で遊び山で親しむ体験(焚き火コンサート、ネイチャーゲーム等)を通じて、森林の恵みや自然環境を実感する	240	230
3		杵築市大田地区の森林環境教育活動	有限会社 福田林業	杵築市	森林環境教育活動(ネイチャーゲーム、木育等)を通じて、地域住民や地元小学生等に、森林が持つ機能や役割を教える	242	93
4		遊び学ぶもみじ村づくり	千部もみじ村	豊後高田市	地域の小学生を対象に椎茸駒打ち体験やタケノコ掘り体験等を実施し、心豊かな児童の育成を図る	170	836
5		森のめぐみの創設と河川愛護促進事業	宇佐市の森と海の共生を推進する会	宇佐市	子供達を対象に、河川周辺及び海岸での植樹や稚魚等の放流、森林の効用や河川の役割等についての講習会、森・川・海の恵みの試食会等を実施	235	76
6		森林ふれあい体験学習と干潟体験学習	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林環境体験学習や干潟体験学習を通じ、子供達に山・川・海のつながりと森林の働きの重要性を理解させ、緑を愛する心を育成する	145	97
7		第16回「耶馬の森林」植樹の集い	「耶馬の森林」育成協議会	中津市	「耶馬の森林」植樹の集いを開催し、水を育む森林を守る大切さについて、耶馬溪ダム上下流域住民の相互理解と連携を深めるとともに、運命共同体意識を高める	393	581
8		中津・桜ともみじの里づくり事業	中津・桜ともみじの会実行委員会	中津市	中津市を日本有数の桜ともみじの名所として創造するため、山国川流域に落葉広葉樹を植栽する	393	183
9		松植樹と美化活動	宇佐市故里の自然を守る会	宇佐市	子供達や地域住民を対象に抵抗性マツの植樹や森林環境教育を実施し、防災や憩いの場としての海岸保安林の大切さを認識してもらう	385	300
10	大分中部	うーた新3カ年プロジェクト(うーたN3P)	うーたの会	大分市	里山再生・保全を軸とした多様な目的を持った活動を実施(里山再生・保全活動、子供の環境教育、生物多様性保全・保護等)	430	510
11		上判田地域の里山保全と本宮山を中心としたセラピー基地づくり	判田ふるさとづくり運動推進協議会	大分市	判田地域の里山林に森林セラピーコースを設け、都市部住民を呼び込み、森林環境の改善を協働で行い地域活性化を図る	295	239
12		馬場保安林「鎮守の森づくりプロジェクト2013」	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	大分市	地域住民や市民と協働で海岸保安林内の下刈、防風垣補修等を実施し、防災機能を有した健全な保安林を育成する。また地域住民や子供達が保安林の役割や働きを学ぶ環境学習の場として活用する	494	328
13		チャレンジ！森のキャンプその3	一般社団法人 ガールスカウト大分県連盟	大分市	エコかまど作りと省エネクッキングを通して、持続可能な森林資源の活用と保護について学び、子供達と一緒に森林の大切さや森林整備の重要性について認識を深め行動につなげる	70	56
14		青江ダム森林公園づくり事業	青江ダム森林公園づくり実行委員会	津久見市	地元住民やボランティアの方で、青江ダム周辺の荒廃した森林の整備・環境道の整備を行い、市民の憩いの場や森林フィールドとして活用する	321	203
15		大分市玉沢地区の竹林保全事業	NPO法人 いきいき安心おおいた	大分市	放置竹林を整備し、廃竹材で土壌改良材・竹炭脱臭効果材・竹パウダーの固形燃料を作製。また環境教室で森や木竹利用の大切さを学び、地球温暖化防止と持続可能社会の実現の育成に寄与する	280	216
16		末広手無坊地区の里山保全事業	NPO法人 豊の国臼津地域市民アドバイザー	臼杵市	景観悪化や災害防止機能の低下が懸念される里山林で、地域住民と協働して進入竹の伐採等を実施し、里山環境を再生させることで、参加者の森林づくりに関する意識の醸成を図る	200	24
17		循環エネルギー推進による里山再生事業	大分エコクラブ	大分市	地元住民との交流により里山整備(雑木伐採等)を実施し、未利用資源を薪ストーブに有効活用する	131	40
18		かくれた山里の景観保全と名木の山里づくり6	河原内つじ会	大分市	荒廃森林の整備や樹齢100年を超える名木の保全を通じて、豊かな森林環境の保全・保護を図る。また、整備した里山を環境教育の場として活用し、保育所や小学校の児童が自然観察会等を実施	200	270
19		山桜日本一の里山づくり	永慶寺山登83戸組合	由布市	竹が侵入して荒廃した里山で、竹林伐採と広葉樹植栽を実施。「山桜日本一の里山づくり」を目標に、下刈、案内板設置等を行い、維持管理に努める	135	46
20	保戸島地区の遠見山森林保全事業	遠見山を蘇らせる会	津久見市	地域住民と協働して遠見山の登山道周辺の森林整備(植栽、下刈等)を行い、環境改善を図るほか、観光客に絶景を体験してもらう	188	100	



NO	流域名	事業の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
21	大分中部	ふるさとの風景を昭和初期の時代に再生する	豊後ふるさと再生塾「昭和の里”かぐや姫”」	大分市	猛烈な勢いで住居や田畑に迫っている竹林や雑木を伐採し、ふるさとの景観を昭和初期の姿に復元させる。また、子供から高齢者までが自然を体験できる交流の場として整備する	375	272
22		森で遊び、森で学ぶ森での特別事業	つくみ環境美化グループ	津久見市	津久見市中心部の宮山公園で広葉樹植栽を行い、森林公園として整備する。また、市内小学生を対象とした森の教室や椎茸駒打ち体験等を実施し、森林づくりの意識醸成を図る	327	576
23		大分市河原内の美しい森づくり	NPO法人 碧い海の会	大分市	市民が参加して、荒廃森林の保全活動や不要木を利用した炭焼き体験小屋作り、作業道整備等を実施。また、自然環境の大切さを学ぶための講座や安全講習を実施し、意識の醸成を図る	452	1,500
24		大分市大字本神崎河内地区の里山保全事業	NPO法人 さがのせき・彩彩カフェ	大分市	河内地区の湊川上流域で里山整備(竹林伐採、チップ化、クスギの植林)を実施	435	50
25		高崎山南側登山道付近の里山保全・登山道整備事業	みどりの森プロジェクト	大分市	地域住民やボランティアが協働して、高崎山南側登山道(森林セラピーロード)の森林整備や案内板設置等を実施。森林環境の改善や森林セラピー・登山を楽しむ人々の増加・健康増進を図る	335	60
26		ひらいたし森林づくり体験交流事業	平石コミュニティ事業部会	由布市	荒廃した里山林で、地域住民が下刈・除伐・間伐作業を行い森林環境の保全を図る。また、都市部の小学生を対象に自然観察会や炭焼き体験等を実施し、森林に対する意識の醸成を促進する	390	100
27		大学生による小中学生を対象とした森林環境教育及び森林資源の循環利用	日本文理大学 人間力育成センター	大分市	大学生が森林の多面的機能や森林資源循環の必要性を学び、そのノウハウを地域の子供達へ還元するため、放置竹林の伐採や竹炭教室を実施。また、竹炭の貯蓄・竹炭を活用した災害支援を展開する	142	426
28		小学生のための木育・ものづくり教室	いきいきものづくり教室	大分市	県産木材を利用したものづくりを子供達に体験させ、木の良さを感じとってもらおうとともに、ものづくりに対する興味・関心を引き出す	149	70
29		津久見市の春は四浦半島から	四浦を考える会	津久見市	河津桜・クスギの植栽や下刈を実施し、豊かな海を再生する。開花時期が早く、開花期間が長い河津桜の植栽により、“津久見市の春は四浦半島から”と言われるよう取り組む	375	120
30		久住連山を背景とした風情豊かな里山づくり事業	NPO法人 したれの里を創る会	竹田市	サクラ・ツツジの植栽や下刈により、大分県が誇れる花の園を創り出して地域経済の活性化を促進し、地域の雇用と青少年の健全育成に寄与する	333	230
31		竹林間伐ボランティア事業	豊かな奥豊後の竹里山を維持保存する会	竹田市	地域住民と県下から広く募集した小学生～高校生が、竹の伐採から加工まで一貫して体験することにより、竹の有効活用や地域に適合した環境保全について学習する	225	100
32		あかい屋根里山森林づくり事業	南小学校跡地利用推進協議会	豊後大野市	小学生を対象に椎茸栽培や駒打ち体験、炭焼き体験等を行い、森林との共生の必要性を伝える。また、地域住民と美しい里山づくりを進め、一般社会に対してその気運を高める活動を行う	330	222
33		ながゆの里山・森林づくり学校事業	NPO法人 緑の工房ななぐらす	竹田市	竹林の整備と竹炭作りとその利用、椎茸作り等を通して大分の産産を学ぶ	296	163
34		里山保全親子森林教室	NPO法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	里山で親子森林体験教室(竹工芸体験、植物観察、花炭作り体験等)を開催し、次世代を担う子供達に森林の重要性を認識してもらおうほか、森林や自然を愛する豊かな心を育む	130	40
35	大分西部	200海里の森づくり	一般財団法人 中津江村地球財団	日田市	筑後川上流の森づくりを下流域住民と共に行い、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚を図る	500	368
36		市民参加の森づくり	日田市	日田市	森づくりをとおして森林の有する公益的機能を守り育てる気運を高めるとともに、上下流域住民の交流・親睦を深める	90	250
37		広葉樹自然の森林づくり	自然の森林づくりプロジェクト	日田市	スギ伐採跡地に自生する広葉樹や芽苗等の成長を促進させながら成育過程を経過観察し、速やかな広葉樹林の成林を図る	77	80
38		千年の森林づくり	ふるさとキャラバン隊	玖珠町	H3年台風19号被害を機に、森林の重要性について都市部や筑後川下流域関係者に理解を求め、下刈作業など復興の協力をお願いすると共に都市農山村の交流を図る	290	85
39		荒廃竹林の整備及び竹の有効利用	千年あかり実行委員会	日田市	管理不足の竹林の伐採・片付けを支援し健全な里山を保全する。また、伐採した竹で灯籠を製作し、日田市千年あかりで有効利用する	442	158
40		森林文化を守る500年の森づくり	森林文化を守る500年の森づくり	日田市	植樹・下刈作業と、森林と関わりの深い伝統的文化活動実施者を講師に講演会を実施する	403	60

NO	流域名	事業の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
41	大分西部	次世代へ残そうシオンの森(森の保全活動とエコウオーク)	NPO法人生活環境テラス	日田市	釈迦岳のシオン原生林を次世代に受け継ぐため、森林保全活動を実施するとともに、多くの県民にこの活動をPRするためエコウオークを開催する	307	29
42		ひと山まるごとガーデニング	ラブ・グリーン大山ボランティア実行委員会	日田市	下流域の住民ボランティアによる育林活動を行い水源の涵養に努める	127	128
43		子どもの森林体験学習活動	豊後自然塾	日田市	自然体験の少ない子供達を対象に、森林体験活動や森林環境保全学習を実施する	380	272
44		子供の炭焼き等森林体験活動	九重宝夢工房	九重町	地域の子供達に炭焼きや椎茸駒打ち体験を通じて、里山の大切さを知ってもらうとともに、荒廃する里山の整備につなげる	106	65
45		未来につなげる日田木青会の森	日田木材協同組合青壮年会	日田市	地元の子供達を対象に、森林づくりや森林環境教育を実施し、森林の大切さを再認識してもらう	420	88
46		鳴池の森林づくり	鳴池の森林づくり実行委員会	玖珠町	農業用水地や憩いのゾーンとなっている鳴池周辺の森林整備を行い、公益機能森林としてアピールする	380	30
47		ヤブトラ物語	奥江の森を元気にする会 森林部会	由布市(団体の所在地が日田市)	由布市湯布院の奥江地区において、除伐・植樹・森林教室等の活動を行い、自然と人間が共生し豊かになっていく方法を模索する	368	59
48	大分南部	ボランティアによる森林づくり事業	佐伯広域森林組合	佐伯市	森の勉強会やプレカット工場見学、公募ボランティアに等による広葉樹植栽(イチョウ、ヤマザクラ、ヤマモミジ)を実施	389	200
49		観感の里森づくり	観感の里森の会	佐伯市	荒廃した伐採跡地を活用して広葉樹の森を造成し、森林と河川を活かした自然体験学習を行うフィールドを造成する(広葉樹植栽、下刈等)	387	122
50		秋葉山森林整備事業	秋葉山さくらの会	佐伯市	荒廃した伐採跡地に広葉樹を植栽し森林整備を推進するとともに、周辺の環境保全を図る(広葉樹植栽、下刈、施肥等)	387	80
51		森のチカラ保全事業	NPO法人 未来塾	佐伯市	荒廃地の整備を行い、里山の保全活動を推進する。地域住民に参加を呼びかけ、植樹や炭焼き体験を行うことで里山保全の意識醸成を図る	387	21
52		紅葉樹の美しい里山づくり	紅葉樹の美しい里山づくりの会	佐伯市	里山で紅葉樹植栽(イロハモミジ・サザンカ・ハナモモ・サクラ)や下刈、施肥等を実施し、後世に引き継いでいく	387	200
53		大池・小池地区の自然環境保全事業	西野浦自然と生きる会	佐伯市	残土処理場や荒廃森林にヤマザクラ・イロハモミジを植栽するとともに、シカネットを設置し、海・山・川の豊かな自然を復活させる	387	183
54		坂本山の環境保全事業	森崎さくらの会	佐伯市	地域住民と協力して植樹(ツツジ、アジサイ、ヤマザクラ、ヤマモミジ)や下刈を実施し、憩いの場を整備する	387	40
55		森林づくり伐竹活動	バンブープロジェクト実行委員会	佐伯市	市民ボランティアを募り、手入れ不足で竹が繁茂した里山林で伐竹作業を行い、森林環境の改善を図る	387	200
56		百樹百草園の造成事業	大越地区棚田を守る協議会	佐伯市	伐採跡地で植樹祭を開催して、子どもたちと関係者が郷土在来の照葉樹や草本類を植栽し、自然の保全と教育の場を整備する	387	152
合 計						16,791	11,386

## 森づくり提案事業 実施例

<有限会社福田林業(杵築市)>



太田地区で木育を実施

<宇佐市の森と海の共生を推進する会(宇佐市)>



岩保新田でクロマツを植栽

<つくみ環境美化グループ(津久見市)>



市内小学生の駒打ち体験

<NPO法人 しだれの里を創る会(竹田市)>



長湯温泉郷でサクラ・ツツジを植栽

<千年あかり実行委員会(日田市)>



東有田地区で竹林整理伐を実施

<西野浦自然と生きる会(佐伯市)>



残土処理場にヤマザクラ・イロハモミジを植栽

# Ⅲ－２－(1) 森林環境教育推進事業 (森の先生派遣事業)

事業費 3,300千円

【森との共生推進室】

## 1 実施主体

大分県

委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

## 2 実施事業の概要

### (1) 目的

次代を担う青少年に森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動を実施する。

### (2) 事業内容

地域や保育所、幼稚園、小・中・高校、放課後児童クラブ等で開催される行事等に、県が認定する「森の先生」を講師として派遣する。

## 3 成果

森林体験活動等を通じ、子どもたちの森林環境に対する理解と関心が高まった。

<平成25年度実績>

(派遣回数) 64回

(派遣人数) 350人

(体験人数) 子ども 3,734人、大人 671人

<実績の推移>

	H23	H24	H25
派遣回数	37回	51回	64回
派遣人数	122人	210人	350人
体験児童数	1,797人	2,750人	3,734人

## 4 課題及び今後の取組

森林環境教育や自然体験に対する関心が高まり、年々申込みが増えているため、派遣回数を増やし、森林体験児童者数の増加を目指す。

## 5 実施状況写真



木育の実施状況



自然観察会の様子



## Ⅲ－２－(２) 森林環境教育推進事業 (名樹とのふれあい事業)

事業費 2,700千円  
【森との共生推進室】

1 実施主体  
市町村

### 2 実施事業の概要

#### (1) 目的

県指定の特別保護樹木のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

#### (2) 事業内容

不健全な樹木の保全・・・整枝、剪定、古枝除去など  
踏圧等による被害予防・・・進入防止柵設置など

### 3 成果

3本の特別保護樹木（別府市：シダレザクラ、臼杵市：ヤマモモ、竹田市：ツクバネガシ）の治療を実施した。剪定を行い、生育環境を改善する等の治療を実施したため、今後の樹勢の回復が期待できる。

### 4 課題及び今後の取組

特別保護樹木は樹齢が100年以上と古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としての活用を推進する。

### 5 実施状況写真

シダレザクラ（別府市）治療状況



剪定作業前



剪定後

(剪定後、切り口防腐剤塗布)

## Ⅲ－２－(3) 森林環境教育推進事業 (「次代の森林づくり活動リーダー育成研修」支援事業)

事業費 700千円

【森との共生推進室】

### 1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

### 2 実施事業の概要

#### (1) 目的

大分の豊かな森を次代に引き継ぐため、日頃から森林環境への意識が高く、地域において森づくり活動や緑の募金活動、森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図るための研修会を実施する。

#### (2) 事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

### 3 成果

- ・世界的、国内的に有数の森林環境保全地域を体験することにより、広い視点で森林環境に関する理解や知識が深まるほか、郷土のみどりを守る意識が高まった。
- ・研修会、発表会、報告会等を通じ、より一層「次代の森林づくり活動リーダー」としての資質向上が図られ、今後の活躍が期待できる。

### 4 課題及び今後の取組

意欲ある子どもたちの資質向上のため、研修内容をさらに充実させ、今後も引き続き屋久島での研修会を実施する。

### 5 実施状況写真



屋久島環境文化村センター



ヤクスギランド

## Ⅲ－２－（４） 森林環境教育推進事業 （みんなで「木育」推進事業）

事業費 414千円  
【林産振興室】

### 1 実施主体

大分県

### 2 実施事業の概要

#### （１）目的

子どもから大人まで全ての世代を対象として、木材に対する意識醸成や知識獲得をめざすため、「木育」の普及に取り組んだ。

#### （２）事業内容

大分県産材を活用し、「積み木（正方形、三角形、六角形各1,000個）」を作成した。

### 3 成果

県の各種イベントで活用したり、幼稚園やNPO等に「積み木」を貸し出し（貸し出し回数16回）、子どもたちが木に触れ・木の暖かみや良さを感じる機会を提供した。

また、保護者等が、貸出積み木を活用し、自ら「木育」活動を実践することで、「木育」の普及がより促進された。

### 4 課題及び今後の取組

今後は、貸出積み木のPRを進め、貸出回数を増やし、更なる「木育」の推進に取り組む。

### 5 実施状況写真



作成した県産材の積み木



貸出積み木で遊ぶ子どもたち



貸出積み木で遊ぶ子どもたち



貸出積み木で遊ぶ子どもたち



### Ⅲ－3 子育て自然体験促進事業

事業費 1,090千円

【子ども子育て支援課】

#### 1 実施主体

大分県

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 目的

子どもの基礎となる感性を育むために重要な幼少期からの自然体験について、野外活動や自然体験の専門的知識を持つ「森の先生」等を活用し、子育て支援施設において、職員や親子を対象とした自然体験の行事等を取り入れることにより、家庭や地域における子どもの自然体験の機会を増やし、もって子どもの心身の健やかな成長を図る。

##### (2) 事業内容

###### ①自然体験講座（3回講座）

1回目…施設職員・保護者等を対象とした自然体験事前学習会

講師：子育てアドバイザー及び森の先生

2・3回目…園内、森林等野外における親子の自然体験講座

講師：森の先生

###### ②自然ふれあい体験学習会（1回講座）

公園、森林等における自然ふれあい体験行事

講師：森の先生

#### 3 成果

子育て支援施設において、自然体験の行事が取り入れられ、子どもの自然体験機会の拡充が図られた。

①自然体験講座（3回講座）7か所

②自然ふれあい体験学習会（1回講座）9か所

①②参加者1,026人（子ども417人、保護者・施設職員609人）

#### 4 課題及び今後の取組

より多くの人に参加してもらうため、子育て支援施設で個別に行っていた自然体験事前学習会を、子育て支援施設職員、子育て中の世代に対する講演会形式に変更する。

#### 5 実施状況写真



自然体験事前学習会



親子の自然体験講座



## Ⅲ－４ 山岳施設整備事業

事業費 2,415 千円

【景観・まちづくり室】

### 1 実施主体

大分県企画振興部 観光・地域局景観・まちづくり室

### 2 実施事業の概要

#### (1) 祖母山五合目避難小屋の改修

高地にあるため、気象の変化と寒暖差により、木部の腐朽が著しかった野地板の交換、屋根材の葺き替えを行うとともに、小屋組の補強、内部床板の張り替えを行った。

#### (2) 祖母山一合目付近登山道の復旧

豪雨により土留めが流され、通行しにくくなっている箇所を新たな木杭と木製の土留めで登山道の復旧を行った。

### 3 成果

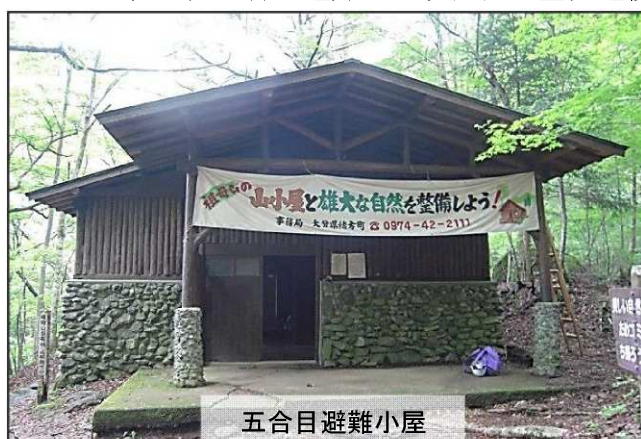
腐朽した箇所の改修、小屋組の補強、登山道を復旧することで、登山者の安全性を確保するとともに、避難小屋の利用環境を改善できた。

### 4 課題及び今後の取組

山岳施設の安全性や利便性を向上させるため、避難小屋やトイレ等の施設を保全するとともに、環境配慮型トイレの設置を検討する。

### 5 実施状況写真

祖母山五合目避難小屋改修及び登山道復旧



五合目避難小屋



小屋組補強



腐朽箇所改修 (床板)



腐朽箇所改修 (軒裏)



登山道復旧

## Ⅲ－５ 森林環境学習指導者活用事業

事業費 894千円

【社会教育課】

### 1 実施主体

県立社会教育総合センター九重青少年の家

### 2 実施事業の概要

#### (1) 目的

園児、児童生徒及び成人に対する具体的な学習機会の提供等により、自然体験活動・宿泊体験活動の促進を図るとともに、当施設養成の指導者の資質向上も図る。

#### (2) 事業内容

「このえエコレンジャーキッズ」(年3回、2泊3日1回、1泊2日2回実施)

「幼児のための森林(もり)の環境学習会」(年1回、1泊2日)

「大人のための森林(もり)の環境学習会」(年2回 1日メニューを2回実施)

「森林(もり)の環境学習サポート隊」の派遣

「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」の実施

### 3 成果

森林環境学習指導者、参加者とも、とても意欲的であり、どのプログラムも活発に活動でき、相互の交流がはかられた。指導者が多くの知識、見識を有しているので、活動意欲が更に高まり効果的な事業が実施できた。

参加園児がスタッフたちとうまくコミュニケーションをとることができた、のびのびと活動できてよかった、こんなに積極的に活動したり友だちとかかわることができるとは思わなかった等、子どもの成長が保護者に手に取るように感じられた。

### 4 課題及び今後の取組

参加者の利便性や安全性、目的達成度を考慮し、実施時期や定員を設定する必要がある。

また、指導者が体験的な環境教育ワークショップのファシリテーターとなるために必要なスキルアップを支援する。

### 5 実施状況写真



「このえエコレンジャーキッズ」  
第1回 『幹の太さを測ろう』  
黒岳山麓にて(H26. 8. 24)



「幼児のための森林(もり)の環境学習会」  
『葉っぱのこすり絵』  
九重青少年の家にて(H26. 10. 19)



## Ⅲ-6 みんなで支える森林づくり推進事業

事業費 3,742千円  
【森との共生推進室】

### 1 実施主体 大分県

### 2 事業の目的

県民総参加の森林づくりを推進するため、森林づくり活動への県民の参加を促す。  
また、外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、森林環境税の適正な運営を行う。

### 3 実施事業の概要

#### (1) 第14回豊かな国の森づくり大会の開催

県民総参加の森林づくりを推進するために、豊かな国の森づくり大会を開催した。

開催日時：11月9日（土） 10:30～12:00

開催場所：佐伯市直川 憩いの森公園（佐伯市直川大字赤木）

大会テーマ：「再造林 次代の森へ 第一歩」

主催等：大分県、佐伯市、(公財)森林ネットおおいた

大会規模：参加者数約600人（みどりの少年団、大学生、林業関係者ほか）

森林づくり活動：面積 1.00ha

植栽樹種 スギ（コンテナ苗）

植栽本数 2,000本

開会式でのウッドカット



コンテナ苗の植樹



森林環境税・林業に関する展示



コンテナ苗の展示・PR



#### (2) 新たな森林づくり推進体制整備事業

森林環境税を活用した事業の適正な運営のため、森林づくり委員会、流域協議会を開催した。

##### ①「森林づくり委員会」の開催

森林環境税事業の適正な運用を図るため、外部委員による「森林づくり委員会」を開催し、森林環境税事業の審議・成果の検証等を行った。

## 森林づくり委員会開催状況

	開催日	協議事項
第1回	6月14日	24年度森林環境税事業の実績 新たな育林技術等研究開発事業審査
第2回	10月16日	26年度森林環境税新規事業の審議 25年度事業の経過報告
第3回	12月13日	26年度森林環境税新規事業の審議 森林環境税事業の現地視察 ・災害に強い森林づくり事業地 ・森林シカ被害現地 ・次世代の大分森林づくりモデル林

森林づくり委員会



現地視察



災害に強い森林づくり



長期育成循環モデル林

### ②「森林づくり流域協議会」の開催

地域における森林環境税事業の適正な実施のため設置した「森林づくり流域協議会」（県内を4流域に分け設置）では、流域内のNPO等が行う森林づくり提案事業の審査や、事業成果の検証等を行った。

### 森林づくり流域協議会開催状況

流域協議会	内容	開催回数
大分中部・大分南部 大分西部・大分北部	・「森林づくり提案事業」（公募事業）の 審査、実績の検証 ・森林環境税事業地の視察、意見交換 等	計12回

## 4 成果

### (1) 豊かな国の森づくり大会の開催

多くの県民に植樹活動を体験してもらうことで、森の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

### (2) 新たな森林づくり推進体制整備事業

第三者機関である「森林づくり委員会」や「森林づくり流域協議会」で、森林環境税活用事業の成果の検証や、次年度事業の内容について審議し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

## 5 課題及び今後の取組

多くの県民に森林づくりに対する興味を持ってもらうため、テーマや森づくりの内容などを工夫し、引き続き県民総参加の森林づくりを推進する。また、「森林づくり委員会」を通し、県民の意見を取り入れ、森林環境税の適正な運営を行う。



## Ⅲ-7 おおいたの森づくり広報推進事業

事業費 2,107千円  
【森との共生推進室】

### 1 実施主体 大分県

### 2 事業の目的

森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

### 3 実施事業の概要

県民に広く森林環境税を知ってもらうため、各種媒体による広報活動を行った。

#### (1) マスメディア等による広報

- ・県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・新聞広告7回（森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・「もりりん」がOABテレビ「お！」のゆるキャラコーナーに出演
- ・OBSテレビ「健ちゃんのおおいた捕物帖」で森林ボランティア団体の活動を紹介
- ・情報誌「月刊セーノ！」で森林ボランティアの取組を紹介
- ・森林環境税パンフレットの作成、配布 5,000枚
- ・森林環境税事業の実績報告書作成（関係者へ配布、HPへの掲載）

#### (2) その他の広報活動

- ・マスコットキャラクター「もりりん」を各種イベントに派遣し、森林・林業や森林環境税に関するPRを行った。もりりん派遣回数：37回
- ・「農林水産祭」、「森づくり大会」において森林環境税に関するコーナーを設置し、森林環境税のPRを行った。また、来場者を対象に森林環境税の認知度等に関するアンケート調査を実施した。

「もりりん」の広報活動



保育園を訪問

農林水産祭 森林環境税コーナー

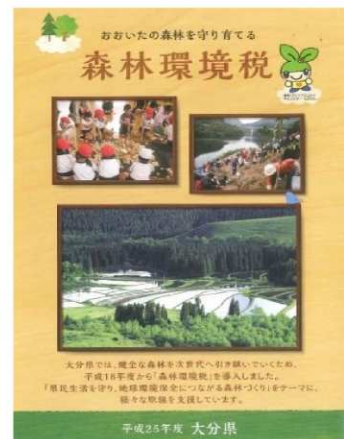


広報番組に出演

森林ボランティア テレビ取材



森林環境税パンフレット



### 3 成果

新聞広告や情報誌、テレビなどで森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

### 4 課題及び今後の取組

森林環境税の導入や用途について、知らない県民が未だに多くいることから、今後も、森林環境税や森林づくりについての広報を継続して行う。

## Ⅲ－８ 新たな育林技術等研究開発事業

事業費 3,670千円

【森との共生推進室】

### 1 実施主体

民間企業、大学、試験研究期間、NPO、県等

### 2 実施事業の概要

#### (1) 目的

森林の適正管理を確保するため、森林環境の保全を目的とした効果的な育林技術の開発や、木材の新たな需要拡大を目的とした用途開発を支援する。

#### (2) 事業内容

「災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備」に資するもの、「低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用」に資するものを公募テーマとして募集し、各実施主体の試験研究および調査にかかる経費を助成する。

### 3 成果

※各取組の詳細は、次ページ以降に記載

### 4 課題及び今後の取組

森林・林業を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、管理の行き届かない森林が増加し、公益的機能の低下が危惧されている。今後も引き続き、効果的な育林技術の研究開発と木材の新用途開発に取り組み、森林の適切な管理を推進し、公益的機能の保全を図る。

### 5 実施状況

番号	実施主体	事業名称	実施期間	25年度補助額
1	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会	地域資源(ヤブツバキ)を活かした里山再生	H25～H27	193千円
2	森林再生プロジェクトチーム	自然発色技術と THz(テラヘルツ)技術を県産材へ添加する技術の研究開発事業	H25	2,695千円
3	低コスト再造林技術研究会	低コスト再造林技術実証事業	H23～H25	112千円
4	森林保全課 治山班 砂防課 砂防班	木製型枠利用促進事業	H24～H26	670千円

## 新たな育林技術研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	新たな育林技術等研究開発事業																																																						
事業主体名	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会																																																						
責任者(職、氏名)	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会長・大分短期大学学長 田代洋丞 事務局長・教授 吉野賢一																																																						
研究期間	1. ヤブツバキの地域優良系統を目指した、毎木調査																																																						
研究開発費	229, 539円 (森林環境税 193, 000円、自己資金等 36, 539円)																																																						
研究目的	地域の未利用資源(ヤブツバキ)を活用(椿油・花卉)した新たな商品開発を目指すとともにヤブツバキの植生調査により、荒廃里山の再生・整備の促進を図る。																																																						
研究内容	1. ヤブツバキの地域優良系統を目指した、毎木調査 2. 商品開発原材料「椿油」の成分分析 3. ヤブツバキ花卉成分分析 4. ヤブツバキ花卉色素分析 5. 里山再生を目指したワークショップ(ビジョン作り)																																																						
研究成果	<p><b>1.ヤブツバキ植生調査(優良系統を目指した毎木調査)</b> <small>【地区名および調査地点】</small></p> <p>調査ヶ所 A:小志生木3本 B:関崎21本 c:小黑2本 D:幸の浦4本 E:大平5本</p> <p>調査項目 緯度・経度・高度・樹高・BN・開花・花卉色彩度etc</p>  <p><b>2.椿油の成分分析結果(日本食品分析センター委託)</b></p> <p>佐賀関産「椿油」の脂肪酸・分析結果 (日本食品分析センター) H26・1・20</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>脂肪酸組成</th> <th>パルミチン酸</th> <th>ステアリン酸</th> <th>オレイン酸</th> <th>リノール酸</th> <th>α-リノレン酸</th> <th>エイコセン酸</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目</td> <td>16:00</td> <td>18:0</td> <td>18:1</td> <td>18:2 n-6</td> <td>18:3n-3</td> <td>20:1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定量:ガスクロマトグラフィー法 %</td> <td>8.3</td> <td>2.6</td> <td>84.5</td> <td>4.1</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>3.ヤブツバキ花卉成分分析</b> ヤブツバキ花卉成分分析 (日本食品分析センター) H26・2・11 / 100g</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>水分</th> <th>タンパク質</th> <th>脂質</th> <th>灰分</th> <th>炭水化合物</th> <th>エネルギー</th> <th>Na</th> <th>Fa</th> <th>Ca</th> <th>K</th> <th>Mg</th> <th>Cu</th> <th>Zn</th> <th>Mn</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>結果</td> <td>85.7 g</td> <td>0.6 g</td> <td>0.4 g</td> <td>0.3 g</td> <td>13.0 g</td> <td>58 kcal</td> <td>4.5 mg</td> <td>0.51 mg</td> <td>24.1 mg</td> <td>107 mg</td> <td>12.7 mg</td> <td>0.11 mg</td> <td>0.09 mg</td> <td>2.20 mg</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4.ヤブツバキ花卉色素分析</b> 花卉色素分析用検体2点供試 鹿児島大学農学部植物文化圏先生研究室へH26.1.25(9名発表)</p>  <p><b>5.オリジナル試作</b> 佐賀関地域ヤブツバキ活用試品 ドレッシング&amp;ソース(H26・3・11)</p>  <p><b>6. 学生参加によるワークショップ</b> 学生によるワークショップ</p> 	脂肪酸組成	パルミチン酸	ステアリン酸	オレイン酸	リノール酸	α-リノレン酸	エイコセン酸	合計	項目	16:00	18:0	18:1	18:2 n-6	18:3n-3	20:1		定量:ガスクロマトグラフィー法 %	8.3	2.6	84.5	4.1	0.2	0.4	100	項目	水分	タンパク質	脂質	灰分	炭水化合物	エネルギー	Na	Fa	Ca	K	Mg	Cu	Zn	Mn	結果	85.7 g	0.6 g	0.4 g	0.3 g	13.0 g	58 kcal	4.5 mg	0.51 mg	24.1 mg	107 mg	12.7 mg	0.11 mg	0.09 mg	2.20 mg
脂肪酸組成	パルミチン酸	ステアリン酸	オレイン酸	リノール酸	α-リノレン酸	エイコセン酸	合計																																																
項目	16:00	18:0	18:1	18:2 n-6	18:3n-3	20:1																																																	
定量:ガスクロマトグラフィー法 %	8.3	2.6	84.5	4.1	0.2	0.4	100																																																
項目	水分	タンパク質	脂質	灰分	炭水化合物	エネルギー	Na	Fa	Ca	K	Mg	Cu	Zn	Mn																																									
結果	85.7 g	0.6 g	0.4 g	0.3 g	13.0 g	58 kcal	4.5 mg	0.51 mg	24.1 mg	107 mg	12.7 mg	0.11 mg	0.09 mg	2.20 mg																																									
普及性	1.ヤブツバキ優良系統の選抜 2. 地域資源を利用した新たな商品開発 3.ヤブツバキ優良系統の増殖 4.ヤブツバキの植樹による里山再生及び振興 5. ヤブツバキを活かした景観形成																																																						
課題	1.新たな商品開発とアンテナショップ販売 2.植樹計画の具体化 3.NPO組織の活性化																																																						

## 新たな育林技術研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	自然発色技術とTHz(テラヘルツ)技術を県産材へ添加する技術の研究開発事業
事業主体名 責任者(職、氏名)	森林再生プロジェクトチーム 代表者 有限会社 紅屋 加藤正孝
研究期間	平成25年度
研究開発費	2,920千円(森林環境税 2,695千円、自己資金等 225千円)
研究目的	1. 林業の健全な経営を目指す為に木材の用途の拡大・林業廃棄物の活用により育林事業を活性化させる。 2. 森林の新用途の開発(自然発色・THz)技術を確立して発色・THz木材の製品化を行う。 3. これらの新技術の目的達成の為に科学的評価を行い安心・安全な木材製品を提供する。
研究内容	大分大学 工学部 田中 圭助教授→発色・THz木材の強度試験 大分大学 工学部 大賀 恭教授→発色・THz木材の含浸試験 京都大学 生存圏研究所 吉村 剛教授→発色・THz材の耐腐朽・耐シロアリ性能試験 森林総合研究所 機能化研 片岡 厚教授→発色・THz木材のウェザーメーター試験 大分県農林水産研究指導センター 木材研究 大野・小谷研究員→色度測定 有限会社 紅屋 加藤正孝 立川守一 →発色液・THz液の開発、発色木材・THz木材の開発 各大学への試験片の製作・杉、桧のテーブル試作 有限会社 梶原製材所・ヤマキ諫本木材→壁板・床板・試験木の製材 株式会社 新象→家具への応用(自然発色)、椅子の発色試作 有限会社 タカセインテリアコーティング→THz応接椅子 3人掛試作 デザイン ラボ I →食卓の製作(自然発色)テレビ台の試作 株式会社 大栄工業 →自然発色・THz木材の市場調査
研究成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然発色木材とTHz木材について強度・退色・耐腐朽・耐シロアリについて、無処理の木材とほぼ同等であることが確認された建築材、家具材、木工材として使用できる。</li> <li>・THz木材については、THz測定の方法が無いので難しい状況。THzの効果は現れる。</li> <li>・THz木材は、ギ酸の放出量を抑制することが確認された。</li> <li>・従来の杉の塗装は黒一色であったが自然発色木材については種々の色の塗装が出来る。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>桧のテーブル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>杉の組立て棚</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>杉の応接セット</p> </div> </div>
普及性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然発色木材については、そのまま神代杉調との事で市場に提供出来る。</li> <li>・自然発色は錯体反応での結果であり、これにより杉材の塗装が可能となりカラフルな木材が提供できる。</li> </ul> <p>その結果、建築材・家具材・木工材等に新しい木材としての用途の拡大が出来る。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・THz木材については、結果は出るがTHz測定が困難であるので消費者への訴求が難しい。</li> <li>・自然発色の多色化が必要である。</li> <li>・木材の含浸を行うため、木粉末、金属イオン末が反応木材に付着するのでこれの改良する必要がある。</li> <li>・含浸反応後の空気との反応時間の定量化の技術確定が必要となる。</li> </ul>



新たな育林技術研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	低コスト再造林技術実証事業																											
事業主体名	低コスト再造林技術実証事業																											
責任者(職、氏名)	事務局長 和田 正明																											
研究期間	平成23年度～平成25年度 3ヶ年																											
研究開発費	150千円(森林環境税 112千円、自己資金等 38千円)																											
研究目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材価格の低迷により、森林所有者の林業に対する経営意欲は減少するばかりである。</li> <li>・近年当日田地方においてもシカによる造林木の食害が顕著にみられるようになり、深刻な問題となっている。</li> <li>・これらの現状を打破するために、低コストで森林所有者が造林意欲を喚起できるような再造林技術の確立を目的とする。</li> </ul>																											
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>①造林経費削除のために植栽本数を従来の2500～3000本/haを1000本/haと2000本/haで植栽する</li> <li>②育林経費削減のために下刈を3つの方法(毎年、隔年、無)で実施する</li> <li>③植栽本数や下刈方法の違いによる成長調査を実施し、森林所有者に普及できる再造林方法を確立する</li> </ol>																											
研究成果	<p>H25. 9月 実証地(プロット内)の下刈り(3プロット【毎年・隔年区域】:1,080m<sup>2</sup>)を実施</p> <p>H25. 12月 下刈り後、スギ(シャカイン)のデータ(根元径・樹高)収集</p> <p>○データ収集結果(表1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下刈り方法別では、今時点では樹高及び根元径に大きな差は見られなかった。</li> <li>・植栽密度別では、今時点では隣接個体との間隔が広いいため影響は出ていない。</li> </ul> <p>表1.各処理ごとのH25.12時点の樹高と根元径</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>処理方法</th> <th>平均樹高(cm)</th> <th>平均根元径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>1000本/ha</b></td> <td>92.0</td> <td>12.9</td> </tr> <tr> <td>全刈り</td> <td>92.2</td> <td>13.4</td> </tr> <tr> <td>隔年刈り</td> <td>92.4</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>無下刈り</td> <td>91.4</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td><b>2000本/ha</b></td> <td>90.0</td> <td>12.7</td> </tr> <tr> <td>全刈り</td> <td>90.6</td> <td>13.1</td> </tr> <tr> <td>隔年刈り</td> <td>92.5</td> <td>12.8</td> </tr> <tr> <td>無下刈り</td> <td>87.0</td> <td>12.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>*幹折損、枯死木等を除く</p>	処理方法	平均樹高(cm)	平均根元径(mm)	<b>1000本/ha</b>	92.0	12.9	全刈り	92.2	13.4	隔年刈り	92.4	13.0	無下刈り	91.4	12.5	<b>2000本/ha</b>	90.0	12.7	全刈り	90.6	13.1	隔年刈り	92.5	12.8	無下刈り	87.0	12.1
処理方法	平均樹高(cm)	平均根元径(mm)																										
<b>1000本/ha</b>	92.0	12.9																										
全刈り	92.2	13.4																										
隔年刈り	92.4	13.0																										
無下刈り	91.4	12.5																										
<b>2000本/ha</b>	90.0	12.7																										
全刈り	90.6	13.1																										
隔年刈り	92.5	12.8																										
無下刈り	87.0	12.1																										
普及性	<ol style="list-style-type: none"> <li>①再造林経費の削減</li> <li>②再造林放棄地の解消</li> <li>③保育方法(下刈)の提示</li> <li>④原木安定供給</li> </ol>																											
課題	<p>低コスト再造林に係る植栽木への影響について、継続的に調査が必要となる。</p> <p>隔年・無下刈地におけるツル切りについて検討する必要がある。</p>																											

新たな育林技術研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	木製型枠利用促進事業
事業主体名	大分県農林水産部森林保全課治山班 主幹 谷山 健一
責任者(職、氏名)	土木建築部砂防課砂防班 副主幹 松田 隆
研究期間	平成24年度～平成26年度 3ヶ年
研究開発費	1,434千円(森林環境税1,434千円、自己資金等 一千円)
研究目的	<p>公共土木事業での木材利用促進は、これまで様々な製品を開発・施工を行ってきているところであるが、使用量は頭打ちの状態である。</p> <p>また、施設の維持管理やライフサイクルコスト(老朽化等)を考えた場合、恒久的な構造物への使用については検討の余地がある。</p> <p>このため、森林保全課治山班において、地域材を使用した木製型枠を開発し、治山ダムについて使用できる目処がついたところである。(平成24年度からはすべての治山ダムにおいて使用している)</p> <p>今後、他分野での使用が可能か検討するため、構造が似ている砂防ダムでの試験施工を行い、広範囲での使用を展開していくことを目的とする。</p>
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 砂防課より、砂防ダム建設現場(フィールド)を提供してもらう。</li> <li>2. 実際に砂防ダムでの使用を行う。</li> <li>3. 問題点・課題の抽出を行う。</li> <li>4. 通常の型枠との単価差を補う。</li> </ol>
研究成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の現場で使用を試みたところ、可能であった。</li> <li>2. 治山ダムでの使用量が増えていることと、労務単価が高くなっているため、当初の予定より単価差は縮減していた。</li> <li>3. 出来映えについても、問題は無いものと考えられる。</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left;"> <p>【宇佐土木事務所】(継続)              施工場所：宇佐市安心院町内川野              施設名：内川野川 砂防ダム</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left;"> <p>【別府土木事務所】(新規)              施工場所：杵築市 米子瀬              施設名：米子瀬川 砂防ダム</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left;"> <p>【佐伯土木事務所】(新規)              施工場所：佐伯市 上久部              施設名：上久部川 砂防ダム</p> </div> </div>
普及性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の施工現場を確保出来たことで、より普及性が高い事が確認された。</li> <li>2. 継続の箇所においても施工が可能であることが確認された。</li> </ol>
課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 縮減しているとはいえ、依然、通常型枠との単価差は発生している。</li> <li>2. 他部局の職員への木材利用に関する理解が必要である。</li> <li>3. ダム高が高くなった場合について、検討する必要がある。</li> </ol>